

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	愛の家グループホームあびこ
所在地 (県・市町村名)	大阪府泉大津市我孫子150
記入者名 (管理者)	新田 茂子
記入日	平成 20 年 8 月 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、日常生活の介助を通じて安心と尊厳のある生活を営むことを支援する」と、何を大切にして利用者の生活を支えようとしているかの理念が、事業所独自の表現で簡潔に表明されている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は全員、理念が書き込まれているIDカードを身に付けており、日常の仕事の中で理解を深めている。各フロアーの目にしやすい場所には、運営理念が掲示されており、利用者、家族にも伝えられている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族様のについては、入居時に書面及び口頭にて伝えているも、地域の方への積極的な働きかけは来ていません。	○ 今後、さまざまな機会を通じて地域の方々に、グループホームの役割などを、理解して頂けるよう働きかける。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に加入したり、納涼祭ではベビーカステラやフランクフルトの出店、ヨーヨーつりや輪投げ、ボランティアによる和太鼓や日舞の披露などにより、地域との接点を持つ努力をし、グループホームに関する理解と関係をさらに深めようと努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時には、近隣の方々に会釈や挨拶をして、極力日常的な付き合いができるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症相談会を開催する事により、地域の方々に認知症の事を理解していただける。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、自己評価・外部評価の意義を理解し、不備な点を改善するのは当然の責務と意識している。毎月の各ユニット会議を通して全員の意見を取り入れ、自己評価・外部評価をいかした改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険課職員、地域包括支援センター職員、入居者家族、職員を構成員として、現在は定期的で開催されている。	○	運営者、管理者は、今後地域の婦人会、老人会、民生委員などの連携の必要性を痛感しているが、今後地域に開かれたサービスとしての質を確保するためには、幅広い立場の人が参加する会議とし、会議を活かした取り組みに繋げることが望まれる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の健康福祉部の担当者とは頻繁に会い、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折りに触れ伝えたり、隔月に開催されている地域包括支援センターでのケアマネ連絡協議会においての情報交換・研修を通して、課題解決を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の入居者様で成年後見制度を活用している方が居られないため学ぶ機会を設けていません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう、徹底した注意を払っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容や重要事項はもちろんのこと、重度化した場合の指針やリスク説明も行い、十分な理解と納得をしていただいた上で、入居していただくようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろより、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努め、意見を聞き取り、運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりなどは、毎月発行のカラー版のホームだよりで見ていただき、行事予定欄などを通しては、家族の参加を促すようにしている。買い物時は、予め預かっている現金にて、その都度清算している。預かり金の管理は「小遣い長」に記載し、家族面会時に了解を得ている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情責任者、苦情担当者を設置している。家族の皆様が面会時に何でも話せるような環境づくりをし、職員も積極的に会話が出来よう努めています。又、直接言い難い方のために、ご意見箱を設置しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ユニット会議、リーダー会議を開催し、運営に関する意見及び、提案を聞く機会を設け、反映できるようにしています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事・通院介助等、又突然の職員の欠勤等で必要になった場合、状況に応じた体制がとれるようになっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護ストレスの減少等を考慮しての、止むを得ない法人内での配置異動もあるが、職員の定着率は低く、不安定である。新しい職員への引継ぎは、先輩職員が同行して、一人ひとりに丁寧に、応対出来るようにしている。	○ 職員が定着してもらえるよう、入職時のオリエンテーションや研修等の機会を設け、なるべく早く入居者様に馴染めるような配慮をしようと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>目標や目的を明確にしていることにより、各職員の具体的な行動は明確になり、柔軟になっている。しかし、実務に支障をきたさないように研修機会を確保する努力はしているが、まだ研修は限られており、職員が順次受講できる体制が十分とはいえない。</p>	<p>○</p> <p>現在、同法人内のリーダー職を対象に2ヶ月に一度、研修を開催している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同市の事業者での交流ばかりでなく、今後は他市町の事業者との情報交換、相互の実務研修にも参加し、日頃の仕事の悩みの解消、介護記録の簡素化・共有化、サービスの質の向上に努めたいとの姿勢が伺える。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に職員一人ひとりと面談する機会を設け、直接意見や悩みを言えるような場を提供しています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>なるべくフロアに顔を出す努力をし、コンピテンシー評価を使い、頑張っている職員に対しては良い評価が出来る体制を取っています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談でご本人と対面しアセスメントの実施を行い、現在の生活状況とご本人の状態の把握をしています。ご本人の楽しみや不安な事、これから行っていきたい事等をお聞きし、今後どう生かしていくかを考えています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族と対面する機会を設け、現在困っていることや不安な事をお聞きし、事業所としてどのように対応出来るかを事前に話しあっています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご家族が困っていることや、今後どうしていきたいかをお聞きし、現時点で何をすべきかを考えています。ご家族の思いに答えられるよう信頼関係を築きながら、利用者にとって、今どのサービスが必要かを、職員間で話し合い実行しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得してからスムーズにサービスが利用出来るよう、入居に至るまでにお会いする機会を十分に設け、いち早く職員に馴染んでいただけるよう努力しています。ご本人の納得が得られない場合には、納得が得られるような関わりを心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様は人生の先輩であり、目上の方という気持ちを大切にしながら、対応するように心がけています。時にはその方の残存能力を活かし、入居者様から教えてもらうような場面も作っています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、入居者様の現状をお伝えしています。入居者の過去の足跡や性格なども同時にお聞きするようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が共に参加できる行事を起案し、一緒に参加していただいています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住まれていた場所の近くへ買い物に行ったり、ドライブに出かけたりしています。居室にも馴染みの物を置いています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の間で関係が持て、談笑する時間や気の合う入居者様同士で話しが出来る様、職員が間に入って調整役を行い、円滑な交流が出来る様支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご本人やご家族の希望や必要に応じて、関係を継続していきますよう努力しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日を笑顔で暮らしていただけるように、スキンシップを取り表情などから真意を量りながら、気持ちをそらせたり、物事をやり遂げられるように、手伝ったり自信を持っていただけるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様個々の生活暦を把握し、利用したあとも情報の収集に努めています。また、ご本人との会話の中でご本人の口から、今までの生活暦をゆっくりお聞きできるよう、時間を設ける努力をしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中から、入居者様が出来ることに着目し、入居者様の全体像を把握出来る様努力しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、現場職員の情報・意見を取り入れて、介護計画の内容をチェックしている。 本人がより良く暮らすためのケアのあり方について、本人、家族の気付き、意見、意向を出し合い、計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に一回の評価・見直しを行っているが、月に一回程度は、新鮮な目で本人や家族の意向や状況を把握している。日常生活での状況の急変にも臨機応変に対応するよう力を注いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄チェック表や必要に応じて水分チェック表を利用したり、介護記録にて一日の入居者様の状況や変化を記録し、申し送りを行なう等、入居者様の日々の変化に気付けるようにしています。また、連絡ノートを活用し、勤務開始前の確認を徹底しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な受診は勿論ですが、それ以外でもご本人やご家族からの要望に応えられるような対応を常に心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在は十分な活動が出来ていません。	○	周辺施設や地域との連携を持ち、ボランティア等への協力も依頼し、入居者様が安心して生活が営めるよう支援していきたいと考えています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の希望に応じて、訪問理容サービスは利用しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの情報交換や、協力関係は少しずつ出来てきている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の提携医療機関以外にも、入居前にご本人の主治医となっているかかりつけ医での医療を継続して受けられるよう、ご家族様と協力し通院介助を行っている。また、提携医療機関の医師にかかりつけ医になってもらい、2週間に1度往診に来てもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の方の医療に熱心で、入居者様やご家族様、職員の話しをよく聞いていただける協力医と連携をとっています。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>常勤で看護職員が勤務し、入居者様の健康管理を行っています。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院による入居者様の心身の低下やストレスの軽減を図る為に、医師や看護師と話しをする機会を持ち、情報交換に努めています。ご家族とも情報交換を行い、退院にむけての支援を行なえるよう連携をとる努力をしています。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアと言っても病状によって出来る方、出来ない方がいる。入居時にはご家族様に対して、ご本人が重度化した場合や終末期のあり方についての指針を示し、ご本人やご家族様の意思も踏まえながら職員間で話し合う機会を設け、今後の方針としてどう行っていくか話し合っています。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ご本人やご家族様の意向を踏まえ、医師や職員が密な連携を取り、ご入居者様が安心して、納得した最期を迎えられるよう随時意思を確認しながら支援しています。</p>		
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前には入居者様のご家族や関係者から十分な情報を収集し、ご本人にとっての環境の変化が最小限に抑えられるような対策を話し合いながら、心身のダメージを防げるように努力しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議やミーティング等で、入居者様に対する言葉使いへの配慮、入居者様の尊厳や権利を損わないような話し合いを行っています。個人情報の取り扱いについても、各フロアに「個人情報の取り扱いに関する規則」を配布している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様個々に対しての声かけの方法や内容をその都度変えたり、その人に合った声かけを行なうようにしています。また、入居者様自らが判断出来る様に、職員が待つ姿勢を大切にしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは概ね決めているが、入居者様個々に合った生活ペースを大切に出来る様支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度、理容師が訪問しており、希望に合わせてカットしていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の個々の好みを考慮したメニューが、3名の調理スタッフにより、月2回の調理会議を経て作られている。また、入居者様個々の力量に応じて、食事の準備や片付けのお手伝いを行っていただけるような声かけを行っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人に合わせて、様子観察しながら、日常的に楽しめるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、入居者様の排泄ペースを把握しています。また、オムツ等に頼る事無く自力排泄をしていただくために、入居者様個々に合わせた排泄誘導を行なう等の支援をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様の心身の状態を把握し、その人に合ったタイミングで声かけを行い入浴誘導を行っている。 お風呂嫌いの方には、言葉かけの工夫やチームプレイで安心感・くつろいだ気分を味わってもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで休息及び睡眠をとっていただいております、安心して生活している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	やはり1対1でのお話し相手をするのが、一番好まれる。 全員で歌を唄ったり、その他玄関の花の水やり、食器洗いまたは、ちぎり絵の作品の展示等、さまざまな経験や知恵が発揮できるよう、心配りされている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため、金銭は事業所でお預かりし金庫にて保管しています。ただし、一緒に買い物へ行った場合には、ご本人に財布を渡し、入居者様の力量に応じて自分で買い物ができるような配慮をしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日などを利用して、職員が同行しての散歩や買い物、また入居者様自身の購入品の買い物に行くなど、入居者様の希望に沿って外出出来るような援助を行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様から行きたい場所の希望も聞いて、みんなで外出する機会も設けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの希望があった場合には、電話をかけられるよう支援しています。また、ご家族様から電話がかかってきた場合にも取り次ぐようにし、ゆっくりと電話が出来る様な支援も行っていきます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を作っていない為、いつでも入居者様と馴染みの方たちが気兼ねなく過ごせるよう、落ち着いて過ごせる場所を提供する等の配慮もしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としても身体拘束廃止推進委員会を設置しており、法人全体としての取り組みを行っている。また、その要綱の内容も職員全員が把握している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に関しては、鍵を掛けないでの対応が、出来る様になりました。特に2階フロアに関しましては、短時間ですが、鍵をかけない時間帯をつくるよう心がけています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に、入居者様が見えるところで待機し、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して入居者様の所在や様子を把握し、事故等がないよう安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様個々の力量に応じて、時には刃物や薬品・火気等の危険性が高いものについては、事業所内でお預かりし、個別に応じての対応をしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	自己に関しては、事故報告書及びヒヤリハット報告書にて報告すると共に、その内容は職員同士で共有し、事故原因の検証と再発防止に努めています。また、報告書は本部へもFAXし、法人全体として共通の認識として捉えています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故や急変時等に関して、対応マニュアル及び緊急連絡対応表を作成し、掲示するなどして周知徹底すると共に、職員が突然の状況に置かれた場合でも対応出来るようにしています。	○	今後、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を行っていきけるよう、内外の講習会に参加し学んでいけるように行っていきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年消防署の立会いのもと、避難訓練や消火器の使い方等の訓練を実施している。また、災害時のマニュアルは整備しており、いつでも対応出来る体制にしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調変化に伴い予測として、以後起こりえる事態の説明も行うようにしています。また、ケアプランに反映させて、リスク回避にも努めるように心がけています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様個々の状況を一番把握しているのは職員であり、体調変化をいち早く察知出来るよう、日々の観察やバイタルチェック及び、職員同士の情報交換にてその日の体調把握出来るように努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに、内服薬の処方箋を綴じており、確認しあっている。薬の変更や追加があった時は、申し送りにて確認しあっている。また、薬剤は専用のケースに入れ、服薬マニュアルの内容を徹底しながら、誤薬がないようにも努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しながら入居者様の排便間隔を把握し、最終排便がいつなのかの確認をしています。また、予防のために個々に応じて繊維質のものや乳製品を多めに摂取する等の対応をしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけや誘導を行い、日々の口腔内の清潔保持に努めています。また週1回の往診時、歯科衛生士から指導をもらい個別にケアも行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事では食事摂取量の記録を行い、入居者様個々の食事量を把握しています。食事中は楽しく食べられるような雰囲気作りを心がけ、声かけや誘導、介助を行いながら支援している。水分に関しても脱水にならないよう配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人として作成した感染マニュアルがあり、事業所内で起こる可能性のある感染症に対するの予防及び対応ができるように努めています。また、各職員への周知徹底も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為に、台所・床面・調理用具の衛生管理、新鮮な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	他の事業者との共同使用の為掃除を分担して行い、明るく見えるようプランターの花を置き、入りやすい空間を作っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にて、季節に合った飾り物や花を飾るなどして、建物の中にも季節を感じていただけるように、配慮をしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端にベンチを設置したり、居間にはソファを設置したりし、一人や少人数でも過ごしたい時に居場所が確保できるような配慮をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族様に対して認知症の方に対する環境の変化について説明し、ご理解をいただき、ご本人が日頃から馴染みのある品物を出来るだけ多く持ち込んでいただくように説明しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有空間や居室等24時間換気を行い、常に空気の循環に努めています。また、室内の温度調節は職員の体感温度ではなく、入居者様にとって過ごしやすい室温かどうかの配慮を心がけています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは勿論の事、廊下・トイレ・浴室等への手すりの設置、ドアの引き戸、玄関周りのスロープ等、入居者様に使いやすい安全な住環境を提供し、できるだけ自立した生活ができる様な配慮をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様の能力を見極め、その力量に応じて声かけや誘導、出来ない部分のみの援助を行い、入居者様が自ら行っていけるような環境づくりに努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には洗濯物を干すスペースとして物干し台を確保し、気軽に洗濯物が干せたり、取り込めたりできる環境を作っています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)